

令和 6 年度 第 2 回協議会・委員からの意見及び対応

2025 年 2 月 3 日 10:00～12:00

於：豊見城市役所 5 F 多目的室

1、令和 6 年度総合交通戦略の個別施策の実施（資料 3）

No	内容
	<p>小川委員：</p> <ul style="list-style-type: none"> バスを利用しない理由について、バス停周辺に駐車場や駐輪場がないため利用しないという意見がある。その意見を踏まえると、乗り方教室だけでなく、それ以外のことを含めたバスの利用に関する PR 等さらに必要ではないか。例えば市内のイベント時には市内一周線の利用を促進させるような活動を行ってほしい。また、駐車場や駐輪場がないバス停とは具体的にどこのバス停を指しているのかわかる範囲で教えて頂きたい。 <p>事務局：</p> <ul style="list-style-type: none"> バス利用の促進については、今後検討しながら進めていきたい。また、駐車場や駐輪場がないバス停について、今回のアンケートでは確認していない。今後検討していきたい。 <p>津波古委員：</p> <ul style="list-style-type: none"> ラストワンマイル交通需要調査の実施について、昨年は豊見城市内、今年度は市外を含めて調査を行って頂いたことによって、交通需要が広がりを見せているのではないかと考えている。しかし、タクシークーポンの配布は今後予定されていないということから、昨年度、今年度の調査をもっとまた細分化して検討して頂き、機会があれば高齢者の方などのご意見なども頂いて令和 8 年以降に再考して頂ければ嬉しい。例えばクーポンをまとめて利用することで、初乗り料金分をクーポンで賄うことが出来るようになる等、タクシーの活用方法をさらに広げて頂ければ、高齢者のみでなく市民の方々が利用しやすいと思うので検討して頂きたい。 <p>宮良委員：</p> <ul style="list-style-type: none"> 新興住宅地に住んでいる高齢者について、病院に行く際に最寄りのバス停から病院に向かうのに対して、帰りにバスを利用するにはバスの時間に合わせて診察が終わるかわからないのでタクシーを利用してしまふ。その結果、バスを利用する金額より倍の金額がかかってしまうので、このような状況について市はなにか対策等を考えてほしい。 <p>名嘉山委員：</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乗り方教室について、バスについての勉強や利用方法以外に、バス運転手という職業に対して理解を深めれたと感じている。車椅子の乗車体験を含めて実際にバスに乗車して体験するのは非常に大事な取り組みだと考えられるので、令和7年度以降も引き続きお願いしたい。
--	---

2、その他、豊見城市の交通政策の取組み（資料4）

池田先生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自走式ロープウェイ「Zippar」について、試験的な導入を検討することは問題ないが、既存の公共交通として利用出来るのか。設置コスト等、モノレールと比較すると低額で済むが、他県の事例等から考慮すると、地域住民が利用するものではなく観光客用になってしまう恐れがあるため、公共交通の代わりになるのか疑問である。今後は利用者層についても考慮する必要がある。 ・ また、軌道系の公共交通について、市内を回れるような骨組みをしっかりと作る場合、電動バスが一番効率良く対応出来るので、その他の実証実験とも併せて今後検討して頂きたい。
事務局：	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「Zippar」について、同時輸送人員はモノレールと比較して少ないが、時間間隔を短くし便数を多くすることによって費用対効果向上を計り、将来的には公共交通として利用できるように今後の計画の中で検討させていただく。

3、女性専用ライドシェア“Wely”について（資料6）

津波古委員：	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常に前向きで良い取組だと考えているが、乗務員の安全管理や運行管理など気になる点はある。また、タクシー会社が管理するライドシェアも存在しており、公共交通を圧迫しない形で実証して次に繋げて頂ければと考えている。反対ではないが、慎重な検討を行って頂きたい。
小川委員：	<ul style="list-style-type: none"> ・ “Wely”の法的な位置づけについて、教えて頂きたい。
崎濱委員：	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用料金は、「移動にかかる実費のみ」であり、バスやタクシーに適用される法律が適用されない事業内容になっている。さらにそこに人件費は発生しない。また、一昨年からバス会社やタクシー会社の人手不足や少子高齢化が進んでおり、その対策の1つと捉えている。

	<p>崎濱委員：</p> <p>事務局：</p> <p>事務局：</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業として成り立たないと考えているが、想定される運送内容はどうのようなものになるのか。例えば豊見城市内のみだけなのか、市外にも適用出来るのか。 ・ 交通渋滞の対策や解決、公共交通利用の選択肢の一つとして取組を行っている。規模は小さいが、今回のライドシェアは女性限定であるため、女性がどのようなタイミングでライドシェアを利用しているのかなど利用内容についての結果を集め、市内での移動になにが必要なのか検討するための材料として考えている。 ・ “Wely”の実証実験について、事業者側から、沖縄県の補助金を活用した事業として採択されたことから、本市での実証実験実施について要望があり、市は後援という形で参入している。実証実験の結果については、今後の市内移動の基礎資料になるものと考えている。
--	--------------------------------------	---